

清流大川

羽地中学校
学校だより 67 号
せいりゅうおおかわ
H30. 7. 13

今日は、ほとんどが文字です。
映像を想像して読んでね。



「うわあーかわいい」
姪っ子が生まれたのは一年前。
兄弟が一番下だった私は、まるで妹
が生まれたように、本当に嬉しかっ
たことを覚えてます。
生まれてから数ヶ月後、姪っ子を
預かる事があり、私は姪っ子と遊ぶ
のが楽しくて仕方ありませんでした。

そんな時、私は信じがたいニュー
スを目にしました。生まれて間もな
い自分の子どもを殺してしまうとい
うニュースです。自分がお腹を痛め
て生んだ子をなせ。私には考えられ
ませんでした。姪っ子の世話をした
ことでこの問題がすごく身近に感じ
られたのです。
ただ単に子どもの命を奪った母が
許せないではなく、そうしてしまっ
た何かがあり、それを解決しなければ、
同じような事件がまた起きてしま
うのではないかと考えたからです。

確かに姪っ子の面倒は「かわいい」
だけで済まされるものではありません
でした。ミルクをあげたり、風呂
に入れたり、なかなか泣き止まな
かったりと時間に縛られることもあり
「ゆっくりしたいな」と思っても休
めない場面がたまにありました。私
の場合、母も一緒にいたので聞きな
がら、お互いで協力して姪っ子の世
話ができたのですが、「あのお母さ
んはどのような状況だったのら」と
と考えたのです。
私なりに何が課題なのかを考えま
した。母親自身の体力や精神的な部
分でのサポートや休養が十分にとれ
ていないなかったのではないでしょ
うか。子どもは生まれたら終わりで
はなく、そこから育児のスタート

なので。初めてのことはかりで不
安な気持ち、理想と現実とのギャッ
プ「育児はできて当たり前」という
世間からの偏見が母親を追い詰めて
しまい、誰にも助けを求めることが
できなかったのではないでしょ
うか。

私には小学校の時から、仲良しの
友達がいまして。その友達とケンカ
をしてしまい、互いに口をきかず
顔をみえない時がありました。私
は自分がどうしたらいいか、わか
らず一人で悩んでいた時、一人の友達
が「そういうええ、最近元気がないけど
大丈夫。」と声をかけてくれました。
私はケンカしたことを話し、悩んで
いるとを告げました。すると、友達

一言の大切さ

羽地中三年

「へえ、そんなことがあったん
だ。大変だったね。でも大丈夫私が
いるし、みんなもいるから。」その
言葉で私は気持ちが楽になりました。

「大変だったね、でも大丈夫」その
言葉で、わかってくれてるという
安心感に包まれた、元気を取り戻すこ
とができました。

また、東京都目黒区では、当時
歳だった女の子が両親に虐待され、
亡くなるという事件がありました。
たった8歳の女の子がノートに書いてあ
ったのは「もうおねがい、ゆるして」
という言葉でした。遊び盛りの女の
子が遊ぶことも許されず死んでいっ
たのです。あつてはならない悲惨な

事件に多くの人が心を痛めたこ
とでしょう。
この事件から子どもに対する愛
情を感じられません。また、母親
の「自分の立場が危うくなるのを
恐れて夫に従い見て見ぬふりをし
た」という供述から、やはり誰か
に助けを求めることができなかった
環境の悪さが伺えます。もし相
談できる母親や、友達が身近にい
たならば、「大丈夫、何か困って
ることはない」と一声掛けてけれ
ば一人の無邪気な命を救えたのか

もしれません。私は悲しみとやる
せなさを覚えました。

このような悲惨な事件、事故を
増やさないために何が必要なのか。
私には、お母さんたちを守るこ
とが大切だと考えます。そして、
子育ての大変さを社会が理解し、
これまで以上の配慮が必要だと思
います。

私たちの周りには、心に大きな
悩みを抱え、誰にも相談すること
ができず苦しんでいる人がいる
かもしれません。あなた「大丈
夫、何でもいってね」というその
一言が、私がそうであったように
希望の光となるのです。

沖縄少年院の法務教官の仕事は、
武藤さんによれば「教師+心理カウ
ンセラー+警察官」を3で割ったよ
うなものだそうです。
仕事内容は、生活指導、職業指導
教科指導、体育指導、そして院生達
との魂の交流だ。

「少年院にくる子は、大体が自己
肯定感が低いですよ。『俺なんか産
まれてこなければ良かった。』『家
に帰っても居場所がなく、辛いから
外に出る』と。誰からも認めてもら
えないんです。だから、自分のこと
が嫌になっちゃうんです。」

「そんな時、僕は最初に命の話を
するんです。」
「君は、君の両親から産まれた。
そして、その両親は、それぞれの両
親・つまり君にとっては、おじいちゃん、
おばあちゃんから君の両親は
産まれた。そのおじいちゃん、おば
あちゃんは誰から産まれたと思うか
い？。そう、それぞれのおじいちゃん、
おばあちゃんは、それぞれのおじい
ちゃん、おばあちゃん、ひいおばあちゃん
から産まれたんだな。」

「君一人が産まれて来るために二人、さ
らに四人、八人、十六人、三十二人、六
十四人、百二十八人、二百五十六人、
必要なんだ」「その内の誰か一人でも欠
けたら、君は産まれてこなかった。みん
な繋がっていたから、君が産まれたん
だ。だから、君は一人じゃあないんだ
よ。そして、君の命は、君だけの物じゃ
ないんだ。君の次に続く未来の子供にも
つながっているのだから。」
「でも人は、いつか死ぬ。これは避けら
れない事実。誰と出会うかによって人生
は決まる。決して独りぼっちにはなる
な。誰かとながらる勇気を持って生きよ
う。」と話します。

山登りが大好きな武藤さん。休みの日
に山登りに出かけて滑落し、川に流され
ます。川の先には落ちたら命がない滝が
あることを知っています。滝に落ちたら
命はない。一瞬の判断で大きな岩に体を
ぶつけ止めます。大けがを負いながらも
自力でドクターヘリを要請します。
病院での長時間に及ぶ緊急手術で一命
を取り止め、苦しいリハビリに耐えなが
ら、助かった命を子供達のために使うこ
とを決意。NONN年幹部への昇任人事を
辞退し、沖縄少年院を退職。日本こども
みらい支援機構を立ち上げ、沖縄全島を
舞台に、非行を始め、不登校、ニート、
ひきこもりなどの様々な問題を抱える青
少年と最前線で交流し、支援を続けてい
ます。また、講演活動や執筆にも取り組
んでおり、全国に活動を展開していま
す。情熱あふれる講演会で、時には優し
く、時には厳しく自立にむけた地道な活
動を続けている武藤さんに感動と激励の
拍手は鳴り止みませんでした。



なぜ、少年院で人生 がかわるのか？

